

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100230	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 さいわい		
所在地	(〒212-0053) 川崎市幸区下平間 340-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花物語さいわいは、川崎駅・平間駅から東急バスで10分程度。「武道館前」下車にて 徒歩2分ほど。JR南武線「鹿島田駅」からは、徒歩15分ほどにある施設です。施設周辺は閑静な住宅街です。地域に溶け込んだ運営を目指しています。平成25年8月1日に認知症対応型共同生活と小規模多機能型居宅介護の併設施設として開設しました。施設理念「安らぎの場所」「自由な場所」「快適な場所」を目指し、ご入居様お一人お一人が第二の我が家と思って頂けるよう、望んでいることを実現できるように支援してまいります。3年目を向かえ、さらに施設全体が活気のある、笑顔があふれるような住まいを目指してまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9 階		
訪問調査日	平成27年11月26日	評価機関 評価決定日	平成28年5月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】

この事業所は、JR川崎駅とJR南武線平間駅からバスで10分程の「武道館前」から徒歩2分の住宅地にある。建物は鉄骨造り3階建てで、当事業所はその2～3階部分にある。1階には同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。

事業所の理念「ご利用者様の第2の我が家を目指します」を掲げ、利用者本位の自由な生活を継続できるように「安らぎ・自由・快適」な場所づくりを支援している。玄関、居間には生花やソファが置かれ明るく清潔である。間取りは居間・食堂を中心に居室が配置され、職員の見守りに配慮している。壁面にはクリスマスツリーや塗り絵を飾り、季節感を創出している。

【健康管理と災害対策】

月に2回、協力医の往診があり、歯科の往診は毎週ある。また、医療連携体制により24時間オンコール体制である為、看護師が週1.5回健康管理に訪れている。

消火避難訓練を年に2回、併設事業所と合同で実施している。非常用食料・飲料水の備蓄を3日分を確保している。

【地域交流と利用者の暮らしぶり】

町内会に加入し祭りを見物し、区民祭りにも出かけている。老人会から敬老の日に米寿のお祝いを頂いた。事業所の納涼祭やクリスマス会には地域住民を招いて焼きそば、流しソーメンなどでもてなしている。足湯を毎週行い、健康祭りでは、基礎代謝量・血管・骨密度測定などで、地域住民の健康維持に協力している。マンドリン演奏や手品などのボランティアの来訪があったり、日頃から利用者は居間で合唱し、カルタなどのレクリエーションを楽しみ寛いでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 さいわい
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
	○	2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

事業所名	花物語 さいわい
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念「安らぎの場所」「自由な場所」「快適な場所」を念頭に置き、日々の介護に従事しています。毎日の申し送りやユニット会議の中でも確認を行っています。	事業所の開設時に全職員で作成した理念「ご利用者様の第2の我が家を目指します」を事務室や各フロアに掲示している。利用者本位の自由な生活を継続できるように「安らぎ・自由・快適」な場所づくりを目指している。職員には入職時に説明し、フロア会議では支援の取り組み方法を話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事「納涼祭」等に近隣の方も参加出来るよう民生委員を通して呼びかけを行っています。散歩や隣の病院への通院時には、挨拶や声をかけていただいたり職員含め交流しています。	下平間町内会に加入している。祭り見物や区民祭りに出かけたり、敬老の日には老人会から米寿のお祝いが届くなどの交流がある。事業所の納涼祭やクリスマス会には地域住民を招いて焼きそば、流しソーメンなどでもてなしている。足湯を毎週行い、健康祭りでは、基礎代謝量・血管・骨密度測定などで、地域住民の健康維持に協力している。マンドリン演奏や手品などのボランティアが来訪している。近隣の幼稚園児や小・中学生児童との交流については民生委員の協力を得ながら実現して行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の人の対応などについて話しをし、家族や地域の方々と一緒に理解を含めるようにしています。また、近隣の病院に通院されている地域の方々が気軽に相談に来られています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご意見を反映させています。具体的には、「毎日の献立について知りたい」との意見に対し、月々のメニューを発送しました。また、行事の内容や日常の生活活動、入居者増減も報告しています。	2ヵ月に1回開催し、出席者は利用者・家族、民生委員、幸区高齢障害課職員、地域包括支援センター職員、事業所職員、建物のオーナーである。民生委員のご主人が町内会役員であり連携はとれている。利用者・家族は、行政関係者と顔合わせができる良い機会と感謝している。会議では運営報告を行い、地域交流、ボランティアの募集などの協力要請を行っている。昨年度の外部評価結果報告については、本年7月の会議で調査機関も参加して行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	幸区社会福祉協議会でボランティア募集依頼をお願いしたり、運営推進会議等を通して幸区役所高齢者支援課や鹿島田地域包括支援センターと相談しています。幸区主催の研修会にも出席しています。	区高齢者支援課には、介護保険の更新時に相談している。鹿島田地域包括支援センターには困難事例の相談や利用者の状況報告を行っている。区のノロウイルス対策や保健所の食品衛生管理者研修を受講している。公益社団法人日本認知症グループホーム協会に加入したので、今後活動して行きたい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて身体拘束の研修を行っています。現在、身体拘束を行っている入居者様は居ません。必要に応じて家族を含め、話し合いを行っています。施設玄関は防犯上施錠していますが、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出されています。	身体拘束を行わないことを運営規定、契約書に明記している。身体拘束の「自主点検チェックリスト」で明らかになった課題を、研修で取り上げ理解を深めている。主玄関とユニット玄関は、防犯や安全を優先し、利用者・家族の同意を得て施錠している。利用者の外出要望には、職員がその都度対応し、帰宅願望の強い方には気持ちが収まるまで職員が付き添っている。また、不意の外出にそなえて、近隣交番にも協力を依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やフロア会議の中で事例検討を含め、どのような場面で虐待になりうるケースかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見逃さないように意識を高く持つよう心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時研修や外部研修で権利擁護や後見制度を学んでいます。また、併設されている小規模での成年後見手続きの一連の流れを、一緒に学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、見学時などに話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。終末期ケアや医療行為に関する疑問があれば、具体的に説明し、ご家族のご意見を伺っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者とのかかわりの中で、意見・要望があれば随時家族に電話連絡をし、利用者・家族それぞれの意見を取り入れるよう努めています。また、家族の面会時や運営推進会議での意見も運営に反映させています。	利用者・家族の意見は運営推進会議、面会時、電話で聞くほか、家族の集まる行事でも聞く機会を設けている。また、本社や川崎センターでも相談・苦情窓口を設けている。毎月家族には請求書と一緒に「ニュースレター」で行事を報告し、個別の1ヶ月間の「生活の様子」を送付している。また、返信封筒を同封し個別の要望にも応じ、運営に反映させている。	今回の外部評価で行った「利用者家族等アンケート」などから明らかになった意見・要望を、運営に反映していくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議・川崎センター会議・エリア会議、ユニット会議を通じて意見や提案を検討し、より良いものに出来るよ努めています。必要物品の申し出や、レク内容について随時職員の意見を取り入れています。	管理者が法人全体の運営会議やエリア会議、職種別会議に出席し運営課題を話し合っている。事業所内の月1回のフロア会議、合同会議で職員の意見・提案を聞いている。3階ユニットでは、職員の提案により着替えの管理ができない利用者のために、脱衣室に「更衣タンス」を置き、常に清潔な着替えを用意している。管理者が年に1回「個別面談」を行い、居心地よく勤務できるように勤務形態、待遇、意見を聞き提案を聞ける機会を設けている。キャリアアップ研修を11月から始め、職員のモチベーションアップに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時（職員の希望があれば随時）個人面談を行い、就業時間の増減や契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し雇入れを取り交わしています。意欲がある方にはリーダーやその上を目指してもらうよう伝えてあります。無資格者には、資格取得支援制度（奨学金制度）等を整備してま		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や、外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキル向上を働きかけています。また、H27.11月より社内でスキルアップ制度が導入されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事や、川崎市連絡協議会との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービス向上についても話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に要望や困っている事を伺い、利用開始時にはアセスメントを取り、会話の機会を多く持つ事で信頼関係を築けるように努めています。相談事や要望を話して頂けるような関係性を持つよう心がけています。ご本人からの要望や苦情等に対しては、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前から、ご家族に不安や要望を常に聞き取るよう連絡を取り、ケアプランに反映させ、安心して利用して頂けるよう努めています。例として、入居後帰宅願望が強い入居者を家族と相談し、話しを合わせて説明。納得して過ごされているのを見てご家族が安心されています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合い・置かれている環境・ニーズを把握、入居者と家族環境を考慮、GH入居が適切かどうかを考慮し、サービスに繋げています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他入居者と共に行う仕事をし、他者と協力しあいながら生活出来る事の喜びを、分かち合える関係性を作れるように努めています。職員も同じ場に生活する者としての挨拶を心がけています。例：職員の入退出時の声かけに於いて「ただいま」「行ってきます」を使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないよう心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声かけの仕方をご家族に助言を頂いています。また生活歴の情報収集を行い、それをもとに職員間でも（申し送りノート）等を使用、共有し、ケアに反映しています。必要時にはご本人の要望に応じ、写真や思い出の品等を持参または職員と共に購入させてもらっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から親しくしていた近隣の方・町内会の方、親戚の方等の面会がしやすい雰囲気づくりを心掛け、関係性の継続を図っています。また入居前から恒例行事に行っている家族との外食なども継続的に行えるように支援しています。	家族や知人の来訪時には、お茶を出し歓迎している。利用者は職員の支援により、近隣の商店、公園、祭り、行き付けの病院などで旧友と交流している。家族と一緒に一時帰宅、墓参り、食事などに出かける人もいる。親しい人との電話の取次ぎや手紙を書く支援も行っている。併設の小規模多機能居宅介護事業所と親睦を深めるため、納涼祭などの行事を合同開催している。時には趣味の囲碁仲間としても交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会・季節行事・音楽イベント等、入居者同士の親睦を深めるため合同で行っています。また、良好な関係にある併設の小規模多機能型入居者介護の利用者や他ユニットの入居者とのイベント交流も心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業所への情報提供等、支援を行っていきます。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより、良い関係性が継続できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファレンスにて意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事やおやつ変更したり、散歩・買い物のお手伝いをさせていただくなど、個々の自立性を大切にケアを行っています。	利用開始時に自宅などで本人・家族に面会し、従前の暮らしぶりや意向を聞いている。また、入居前に見学してもらっている。日々の要望は「生活支援ノート」に記入し職員間で共有し、計画作成担当者が介護計画に反映している。本人からビールを飲みたいとの要望があり、家族と相談し居室に冷蔵庫を置き、ノンアルコールビールを提供したことがある。希望・意向の把握が困難な人には居室担当者が対応し、月に1回家族へ便りを送り、返信封筒に要望を書いてもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、家族や本人から得た情報を職員間で共有し、今までやってきた家事や趣味等が継続できるよう、また、利用に至る経緯や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が継続できるような支援に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、介護保険の更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努めて、話し合い対応しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切に、面会時家族や担当者会議にて職員から（申し送りノート活用）情報を多く得て、介護計画書を作成。職員間で共有を行っています。	本人・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。介護計画と連係した支援経過記録を記入している。月に1回「モニタリング」を行っている。3ヵ月ごとに「サービス担当者会議」で評価を行い、医師や看護師の意見を取り入れて介護計画を見直している。家族が担当者会議に出席する時もある。心身の状態に変化があれば随時見直している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、願いや困り事をリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファレンスにて情報の共有及び介護計画書への反映、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や家族との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5月に近隣のお宅の庭に、日を分けて入居者様全員お呼ばれ。立派な臯月等を鑑賞させて頂き、おやつも一緒に頂きました。9月祭礼のお御輿は、施設前から見学。「頑張って」の声を双方で掛け合いました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族に承諾頂いたかかりつけ医が、月2回の定期訪問診療をしています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また、必要時には主治医の指示を頂き、外部受診の支援をしています。	利用者全員が事業所の協力医の往診（月2回）を受けている。歯科の往診は毎週ある。また、医療連携体制により24時間オンコール体制があり、看護師が週1.5回健康管理に訪れている。認知症の対応は協力医から紹介してもらっている。インフルエンザと肺炎球菌の予防接種も協力医から受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で常に相談を行い、個人記録に記入し情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のお見舞いや、家族と連絡を取ることにより、本人の状態を把握するよう努めています。また退院時は、ご家族・病院関係者の方と話し合いを持ち、ケアの方向性・リスク等を説明しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為、早い段階より十分に話し合い、看護師・主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。	「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係わる指針」があり、契約時に説明し同意を得ている。利用者が重度化した場合は、本人・家族の意向に沿いチームケアによる看取り、または、入院支援を行う方針である。これまでに看取りの実績は無いが、今年の6月に1名入院支援を行った。本社で看取り研修があり参加している。事業所で「臨終が近づいたときの兆候と介護」の資料を作り、内部研修を実施している。また、これをアニメ化し、緊急対応ができるように事務室に掲示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市幸区消防署と連携し、日中の避難訓練と夜間想定訓練を実施。また、災害時備蓄品も備えています。	消火避難訓練（夜間想定を含む）を年に2回、併設小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施している。うち1回は消防署の立ち合いがある。訓練では避難時間も計測し、各ユニットには救助用のスローダウンを設置している。非常用食料・飲料水の備蓄は併設事業所と合わせて3日分を確保している。飲料水については屋外の自販機を防災備蓄として、近隣にも開放している。また、停電対策として、カセットコンロなどの防災用品の備えがある。	防災訓練への近隣住民の参加や町内会、自衛消防団との連携など、地域との協力体制を築いていくことを期待します。また、職員の意識向上のため、備蓄の在庫管理を実施することが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬と敬意の念を持って接していません。不穏状態が続いたとしても、その方の生活歴や性格を考慮し、その都度言葉かけや対応に配慮しています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番も、ご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。	利用者との契約時に個人情報保護の説明を行い、同意書を受け取っている。職員は、入職時に個人情報保護に関する誓約書を提出し、プライバシー保護や守秘義務などの研修を受講している。管理者は人格の尊重と言葉かけには注意を払い、接遇研修を行っている。利用者で昔「校長」をしていた方がおられ、時折、先輩として訓示をしてもらっている。個人情報に係る重要書類は、事務室のキャビネットに施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。普段着の選択・飲み物等も自分で選べるよう声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の有無、ゴミ捨てや配膳の手伝い等、可能な限り本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩したいのか、又は、のんびりと過ごしたいのかを聞いてから行動を共に行っています。就寝時間も体調等を考慮し、好きな時間に就寝しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声かけも行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや、できる力を把握し、入居者に確認しながら調理する人・片付ける人を決め、職員と一緒に準備や調理を行っています。また、食事が楽しめるよう音楽を聴きながら召し上がる事もあります。	配食業者から食材を購入し、職員が個々の食形態に合わせて調理・盛り付けしている。利用者は下膳、食器洗い、テーブル拭きなど出来ることを手伝っている。湯のみ、お椀、箸は馴染みの私物を使用している。車椅子の方には職員の支援で、食事中は椅子席に座り、背当てや足台で座位を調節している。職員は食事介助に専念している。季節ごとの行事食では、職員も一緒に食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより、調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声かけ等、支援を行っています。水分と食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じてご本人の嗜好に合わせた飲料等を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声かけ・見守り、必要に応じて介助を行っています。（ご希望者には、週1回訪問歯科があります。）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声かけ誘導を行っています。尿意や便意の訴えが無い方・間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声かけ誘導を行っています。	利用者全員が排泄介助を必要としている。利用者ごとの排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し、自立に向けた支援が行われている。利用者の体調を判断して、リハビリパンツから布パンツに換えることもある。排便調節は看護師の指導がある。トイレは3カ所（職員用は別に）あり、手すり、肘掛、手洗い、ペーパータオルが設置されている。内2カ所は車いす介助ができる広さがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事・水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、毎朝体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつ（ヨーグルトなど）にて排便コントロールの支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思を尊重し、身体の状態も考慮し、気分良く入る声かけを工夫しています。拒否がある場合、その方に合わせた声かけや誘導をしています。入浴が出来ない日が続く時は、清拭・足浴で対応しています。	週2回入浴している。入浴を好まない方には、家族に声かけしてもらったり、入浴時間、曜日、職員を変えるなどの工夫をしている。毎週火曜日に足湯を小規模多機能事業所で行っており、地域の方にも楽しんでもらっている。入浴剤は色の希望を聞いたり、季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。浴室、脱衣所にはエアコンを設置し、同性介助は要望があれば対応する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が困難な場合は、その時の状態観察をしながら、本人にも伺い、休息の支援を行っています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はとくに配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した訪問診療記録と別ファイルに添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。台所仕事が好きな方には、調理や片付け・テーブル拭き等を職員と一緒にしており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。また、手先の器用さに応じ、針仕事を実践し、職員や他入居者様から感謝される事により、喜びや張り合いを感じて頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。お盆の時、お墓参りに家族と共に出かけた方が数人います。（介護タクシーの手配等を支援）また、日常的な買物で徒歩・車にて近所のお店に外出支援しています。	天気の良い日には、職員が付き添い車椅子の人と一緒に散歩に出かけている。買い物に立ち寄り、地域の方と交流することもある。地域のお宅の観菊に招かれたことがある。家族の協力を得て、初詣や区民祭に出かけ、四季を感じる花見には弁当を持参している。外出には併設事業所の車を利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っており、使った金額を請求させて頂く立替制度を取っています。本人所持の希望は、家族と相談の上で使用するよう支援しています。（代替でクォーカード使用もしました。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、「家に帰りたい」という訴えがあった時には、家族了解の下、電話が出来るように支援を行っています。掛かって来た時は、お繋ぎしています。また、手紙のやり取り等、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の洗面台やフロアーに、毎週違う生花を飾っています。また、ご家族了承のもと、お誕生日等のイベントで撮影した入居者様の写真をフロアーに飾り、他の入居者様やご家族、来訪者との会話に繋げています。	玄関、居間には生花やソファを置き、明るく清潔感のある空間となっている。間取りは居間・食堂を中心に居室が配置され、キッチンユニットの入り口にあり、職員の見守りに配慮している。ユニット玄関には家族の要望により、職員の顔写真を掲示している。壁面には、クリスマスツリーや塗り絵を飾り、季節感が感じられる。利用者は居間で合唱し、カルタなどのレクリエーションを楽しみ寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者お一人お一人が自由に居室やフロアーを移動出来るようにしています。他のユニットの気の合う入居者との行き来も自由に出来るよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、お気に入りの写真たて・アルバム・時計などお持ち頂き傍に置く事により、自宅のような感覚で、安心して居心地良く生活出来るよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	居室にはエアコン、換気扇、照明器具、ベッド、洗面、鏡、ペーパータオル入れ、クローゼットが備え付けられている。室内は整理整頓され清潔である。居室入り口には利用者が描いた塗り絵が飾られている。誕生日の写真や職員からの寄せ書きが壁に飾られていた。利用者は馴染みの縫いぐるみ人形や身の回り品を持ち込み、居心地よく過ごしている。転倒防止のため、離床センサーマットを利用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では、口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分で出来るよう、ご家族と相談・協力しながら、個別性を重視した環境を目指し、自立した生活が送れるよう支援しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語さかい

作成日 平成28年5月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10 1 6	「アンケート」なども活用して家族の要望や提案を運営に反映していくことを期待します。	「アンケート」も、面会時家族に要望を伺い取り、今後の運営に反映していきます。	家族とのノート交換やしよほり面会に新しいご家族に、電話や紙などで要望や提案を伺い、運営に反映します。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。